銅鏡　花鳥文様　永仁二年三月十八日施入ノ銘アリ　一面

【所　在　地】薩摩川内市宮内町 1935 － 2　新田神社
【種　　別】国指定有形文化財（工芸品）
【指定年月日】大正７年４月８日

薩摩川内市大小路町の国道３号線から分岐する県道 44 号線を西へ約１ km，こんもりとした木立ちの中に鎮座する新田神社には，和鏡・漢鏡合せて 73 面の古鏡が保存されている。そのうち３面が国の重要文化財に指定されている。これはそのうちの１つで，川辺の砂上に大輪の牡丹２株を配し，その間を２羽の鳳（おおとり）が飛び交う，平明な構図のものである。

径 18.9cm，縁厚 0.35 ～ 0.37cm，胎厚 0.06 ～ 0.13cm，重さ 380g

中心の鈕の左側に「永仁二年三月十八日　左衛門尉友俊　施入之」と線刻の銘があり，永仁２（1294）年かそれに近い鎌倉後期の製作とみられる。

この鏡を新田神社に施入した「左衛門尉友俊」については確かなことはわからないが，鎌倉時代，新田神社とも関係の深かった惟宗姓執印氏の分流国分氏の出ではないかといわれている。国分氏系図によれば，新田神社の執印職であった惟宗康友の二男左衛門尉友久が国分寺留守職に任命されてから国分氏を称するようになったとされ，この友久の５代後に友俊の名がみえる。この友俊が，鏡の施入者友俊と同一人であるかどうか断定できないが，国分氏が代々「左衛門」あるいは「左衛門尉」を称しているので，恐らく国分氏の類縁の者であろう。